

維持管理・環境管理専門委員会の活動

活動報告

- 第38回協議会(平成26年12月16日)以降、会議を現地で3回開催しました。
- 第4回(12月18日)の会議は中池、第5回(1月17日)の会議は全域、第6回(2月3日)は下池で行い、整備箇所や周辺の状況を確認し、意見を出し合いました。第5回は休日(土曜日)の状況を確認しました。

会議

中池(現地)

第4回 平成26年12月18日
9:30~11:35



休日の全域(現地)

第5回 平成27年1月17日
9:30~11:35



下池(現地)

第6回 平成27年2月3日
9:30~11:40



【確認ルート・地点】

◆ 止まって確認 — 歩いて確認

③旧流路河岸付近

- ところどころでは旧流路の水面が眺められるような整備をしたい
- 看板が欲しい
- 旧流路の河岸沿いの通路ではゴミが多い。大きなゴミや大量のゴミは、通路が車で入れる状態だった頃のもので、現在はこうしたゴミは減っていると思われる。新しいゴミではペットボトルなどが多い。
- 年に1回くらいゴミ拾いイベントをしたい。
 - 荒川クリーンエイドに参加して行う方法がある。
 - 地域の人、行政、企業、学校を巻き込んで協議会主催で行い、拾ったゴミは自治体に処理してもらおうが良い。
- 旧流路の河岸部ではササ・タケ類がかなり増えている。結果としてシンジュの侵入抑制になっているかもしれないが、注意が必要である。管理方法を考えたい。
- ところどころでオオバクサやシンジュが増えているところがある。これらの場所はかつては明るい良い雰囲気の出発点であった。このような部分の改善を考えたい。
- 休日は対岸の特定の場所の音がかなり聞こえるのが課題である。

④実施計画範囲の中央の通路

- 両側にシンジュが生育しつつある。早めに対処したい。

⑤実施計画範囲の外の通路

- 協議会での管理は難しいため、太郎右衛門地区の散策路としての位置づけだけをする。

● 全体に共通

○ 通路・看板の整備

- 中池の実施計画範囲は太郎右衛門地区の自然を知ってもらうために面的に良い空間であり、散策するのにとても良い。現在の通路を活かすことができる。
- 現状でも歩ける状態の通路になっているので、杭を打ってロープを張るだけでも通路らしくなると思われる。チップを敷いても良いかもしれない。
- 少し広い場所の方が歩きやすいので、狭いところは広げた方が良いかもしれない。
- 旧流路付近や堤防側の通路入り口付近には看板が欲しい。
- 湿地（池）などに名前をつけた方が管理上も観察等の利用上も良いと思われる。

○ 通路・植生の管理

- 一帯がサバイバルゲームで利用されているようであり、管理のあり方を考える必要がある。
- キツタが絡まった木が多い。倒木に至るようならキツタは排除したい。
- カナムグラ・クスが増えているところではオギが倒されている。火入れしたいが、飛行場に近いため難しいと思われる、別な管理方法を考えたい。

実施計画
事業範囲

①

②

④

⑤

①②横堤・堤防付近の通路入り口
• 看板が欲しい

□：特定の場所モニタリング地点

【道路の凡例】

- 一般車両が通行可能
- 歩行者が通行可能（軽トラック等は通れる場所もある）
- 道路跡が残っている（路面状態により歩ける場所もある）



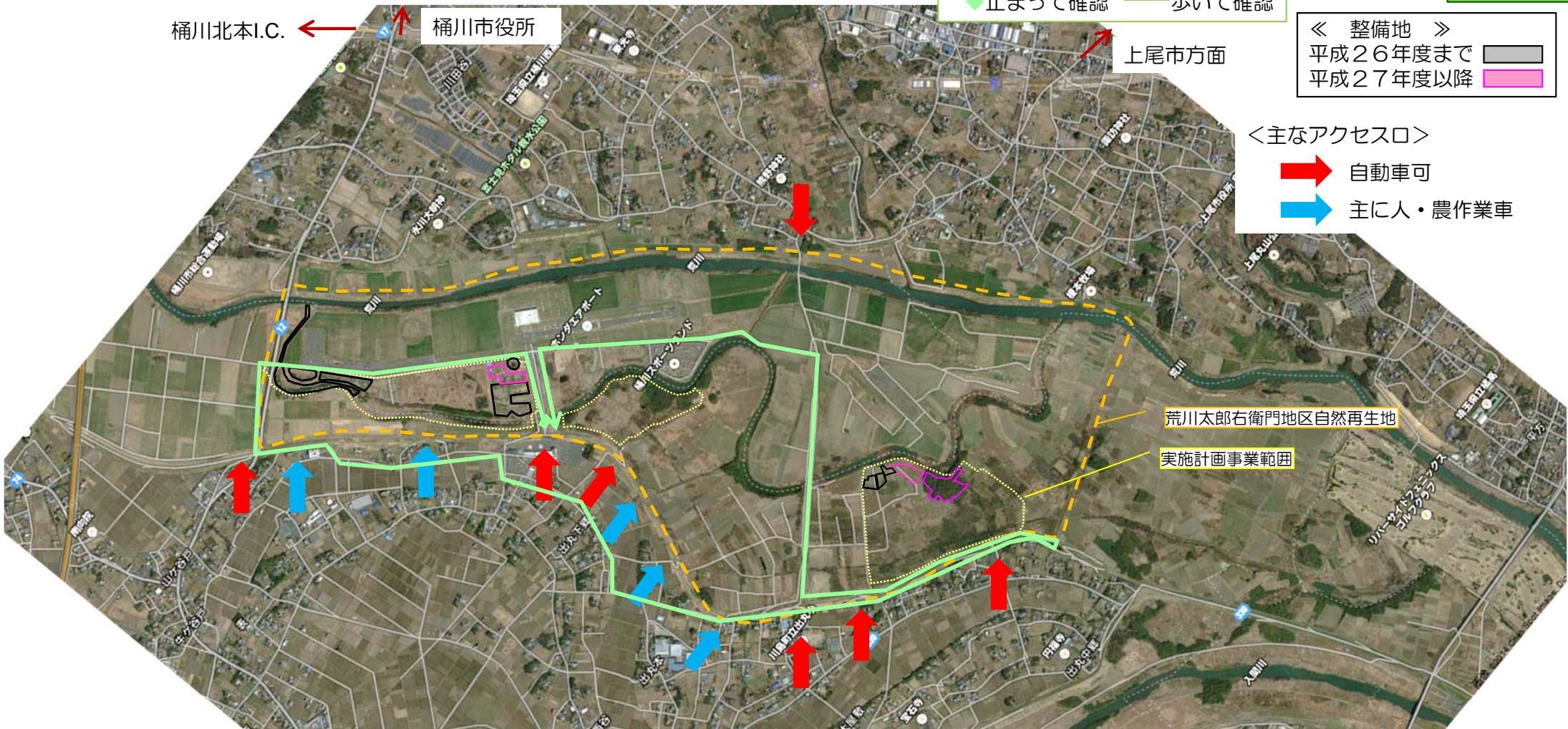
【確認ルート・地点】

◆止まって確認 歩いて確認

◀ 整備地 ▶
 平成26年度まで
 平成27年度以降

◀ 主なアクセスロ ▶

➡ 自動車可
➡ 主に人・農作業車



川島町役場
 川島I.C.
 川越市方面

- 太郎右衛門地区の休日の利用状況
- 自転車の利用者が多い。午前中のため下流から上流に向かう人が多い。また、9時台よりも10時台の方が多い。平日は高齢者が多いが休日は若い人も多い。
- 休日はスカイダイビングの利用者が多い。
- 飛行場の見学で親子がいた。お子さんは就学前の小さな子だった。
- 中池の旧流路の左岸側の特定の場所から発生する音がかなり大きい。特に大きいと想定されるイベント開催時に計測しておく。
- 中池の旧流路の左岸側の特定の場所の外側の雰囲気が景観的に良くない。木を植えるなどして隠せると良い。
- 最近はセリ摘みの人が多い。
- 散歩の人は少ない。寒いせいかもしれない。犬の散歩の人はいたが少なく、多くの人はもっと早い時間帯か夕方になっているのかもしれない。
- 太郎右衛門地区の今後の整備
- 休日に限らないが太郎右衛門橋の横断部分が危険である。自転車が太郎右衛門橋の下をくぐるルートの整備を整備している埼玉県に働きかけたい。すぐは難しいので、当面は橋のところに自然再生の案内看板を置きたい。橋下のルートは延命地藏さんのところを経由するようにして、お地藏さんのところに説明看板があると良い。
- 近隣のバス停を「太郎右衛門地区自然再生地前」としてもらえるようにバス会社に働きかけたい。
- トイレが欲しい。水防倉庫のそばに置けないか。
- 飲み物を販売すれば売れるのではないか。資金確保の手段になるかもしれない。
- 下池の堤防に竹林が迫っているので堤防管理の面で注意した方がよい。

③整備検討中の場所
 ・このあたりは牛フンが多くまかれた場所なので、シンジュやオオブタクサなどが多く出て来ている。
 ・火入れを試験的にやってみたいが、地元の合意が必要であり、協議会を通した努力が必要である。
 ・オギが生えているところは牛フンがまかれた場所ではないので、そのまま維持したい。
 ・ゴミが多いのでゴミ拾いをイベントで実施したい。ゴミ拾いは草が枯れている時期に実施する必要がある。
 ・竹林も拡大しているようである。
 ・シンジュの巻き枯らしを実施した木には、外来種であるため試験的に巻き枯らしを実施していることがわかるようにしておく必要がある。他の人が在来種に同じことをしないようにする。

②ハンノキ移植地・試験掘削地
 ・景観が良いので水際に散策路が欲しい。看板が欲しい
 ・散策路をつくる場合、ゴミを捨てられないための工夫がいる。車がはいれないようにする車止めの設置や、看板を多めにするなどすれば、少しは抑制効果があるかもしれない。
 ・シンジュが多いのが問題である。町に協力を呼び掛けたい。

●全体に共通
 ・旧流路沿いや草地、樹林地、水路沿いを通る散策路が欲しい。
 ・散策路の整備については、生き物、ゴミ、人とのあつれきのバランスについてよく議論して進める必要がある。

⑤整備検討中の場所、事業範囲外
 ・車が入れる所まではゴミが多く、入れないところはゴミが少ない。
 ・道は車止めなどをしてゴミ捨てに利用されないようにしたい。
 ・散策路は木のチップ等で車が入れないように見せかけると良い。
 ・維持管理に必要な時にだけ車を入れるようにしたい。
 ・農地を持っている人にカギを管理してもらってはどうか。

⑥ハンノキ育成試験地③、事業範囲外
 ・下流の田んぼはコウノトリに良い。
 ・遊水地にしてはどうか。
 ・自然再生地として良い。

⑦下池下流の出入り口
 ・最下流部の堤防の出入り口では、堤内側・堤外側のそれぞれに看板があると良い。
 ・堤防上は自転車が多いので、散策路のルートにはできない。
 ・法尻に歩けるところがあると良い。
 ・タケは放っておくと増える。堤防側にきている。

④特定の場所
 ・落ち着いて歩くのに良いルートである。
 ・中池の旧流路左岸側の特定の場所から発生する音はあまり聞こえてこないもので、その違いを踏まえたルートを整備したい。
 ・利用によって生物に影響を与えない配慮が必要である一方で、観察対象になりそうな「けものみち」などもあるので、活用できるものも検討したい。
 ・道の低水路側はハンノキ、堤防側は様々な樹種があって面白い場所である。
 ・ハンノキの林床にはノウルシが多かったが減っているようである。周囲のクワを切ると改善できるかもしれない。
 ・ルートとして整備するのであれば、古い木や周囲の枝は安全上切った方がよい。
 ・水路にゴミが多いが、これを無くせば良い雰囲気になる。水路沿いを歩けるようにすると良い。

整備地

実施計画
事業範囲

検討中

□：ハンノキ育成試験地
 □：特定の場所モニタリング地点

【確認ルート・地点】
 ◆止まって確認 — 歩いて確認

《 整備地 》
 平成26年度まで [白枠]
 平成27年度以降 [紫枠]

【道路の凡例】
 — 一般車両が通行可能
 — 歩行者が通行可能（軽トラック等は通れる場所もある）
 — 道路跡が残っている（路面状態により歩ける場所もある）

